

目的、結婚生活の幸福度を研究し、成果を公表したターマン博士や牛島博士の研究は、夫婦の幸福度を考える上に極めて貴重な資料であるが、私は現代の夫婦の幸福度の変化を察知したいと考えてそれらの実態調査を行つた。そして才一次的には主として全般的立場からと、農山漁村の夫婦について調査し報告を行つた。今回は主として就業夫婦(共働き)と妻が無恥(家事専業)の夫婦について集計分析し、又最近の夫婦の幸福度とターマン、牛島両博士の調査と比較してみた。更に夫婦の不平項目の傾向や就業別割合をみた。

方法、山口県宇部及び徳山の二地域の500組の夫婦を対象として夫と妻に調査用紙を配布し調査を行つた。有効回答数は369組(738人)で、回収率は73.8%である。質問項目の中、夫婦の一致度、協力度、話し合い、健康度、行動、不平数、幸福度の7項目に配点し最高得点を100として集計考察した。調査時期、昭和50.9—51.2

結果、全体を夫と妻に分けて集計すると、夫の幸福度平均76.16、妻の幸福度平均は77.41で妻の幸福度が1.25高い。無恥の妻も夫より1.4高い。夫婦共働き(農外就業)の場合は、夫との差がほとんどない。妻が農業従事(所謂兼業農家)の夫は、妻との差は1.7であるが、幸福度平均は最も低く、74.5である。ターマン、牛島両博士調査の幸福度グラフと、本調査グラフを比較してみるとかなりの差があり、この調査における夫婦は、結婚当初に幸福度が高く、10年前後に最低で、老年期においては幸福度がそれほど低下せずかなり安定している。不平項目を集計分析すると、妻無恥の家庭が比較的不平数が小さく、次に農業家庭となり、共働きの家庭がやや大きい。